

漢文の構造 (P118)

漢文は、「古典中国」語の「文語文法」に基づいて書かれているため、日本語と文構造が異なる点も多くある。

《日本語の文法と同じ構造》

1 「主」語 + 「述」語

【何が(は)】—【どうする(どのようだ・何だ)】

主語 述語 主語 述語  
 日 暮 途 遠。  
 ↓  
 書 日 是 暮 れて 途 是 遠 し。

2 「修飾」語 + 「被修飾」語

【どのような(に)】—【何だ(どうなる)】

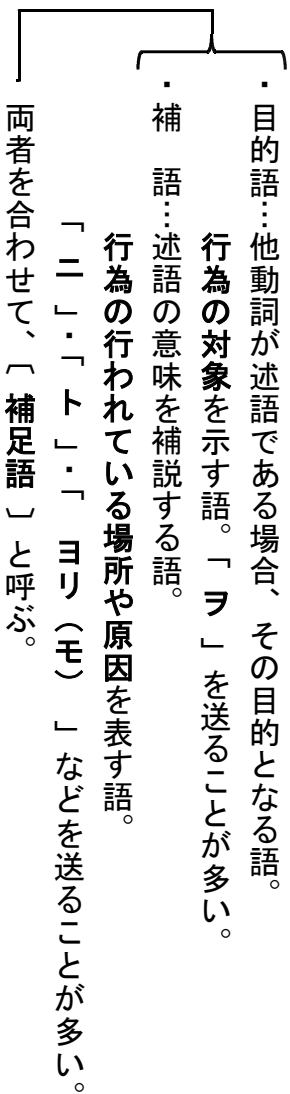
修飾 被修飾 修飾 被修飾  
 大 器 晚 成。  
 ↓  
 書 大 器 是 晚 成 す。

○主語・述語と修飾語・被修飾語

日本語でも中国語でも、主語は述語の「前」、修飾語は被修飾語の「前」におかれる。

	主語	述語	主語	述語
客	舍	青	柳	色
修飾	被修飾	修飾	被修飾	修飾
↓	書	客 舍 青 柳 色 新 タナリ。		

○目的語と補語



《日本語の文法と異なる構造》

3 「主」語 + 「述」語 + 「補足」語  
 【何が】—【どうする】—【何を】

☞：知者樂水。 ↓ 書 知者は水を楽しむ。

4 「主」語 + 「述」語 「補足」語 + 「補足」語  
 【何が】—【どうする】—【何を】—【何に】

☞：君子求諸己。 ↓ 書 君子は諸を己に求む。

(相手に何かを与えたり取り上げたりのする他動詞)  
 \*「与・教・授・賜・遣・挑・奪」など(=与奪動詞) が述語の場合、  
 語順は逆になる。

☞：漢王授我上將軍印。 ↓ 書 漢王は我に上將軍の印を授く。